

ハイチのIAH代表センチルさんから活動報告が届きました。

「ハイチの現状は史上最悪と言えます。お年寄りたちは、これほどの残虐行為、犯罪、殺人、死を経験したことはないと言っています。首都ポルトープランスでは、人々は家を追われ、歴史的建造物が焼かれ、ゴースタウンと化しています。首都の90%を支配しているギャングを政府、警察は制圧できません。国際空港は2024年11月以降閉鎖され、ドミニカ共和国に避難したハイチ人は、国外追放に直面しており、アメリカでも同様です。しかし、首都の一部ではギャングに対抗しており、私達は粘り強くこの内戦を反転させたいと願っています。

IAHの事務所は、襲撃は受けてはいないものの、ギャングによる道路のパリケード封鎖で、中に入ることができない状態です。一方、医療保健センターは困難を抱えつつも、昨年11月から2

月まで264人の患者を診察し、212件の検査を実施しました。こころのビタミンの皆さんが、私たちの活動を支援し続けてくださることはハイチの人々にとって大変意義があり、スタッフの励みになっています。心から感謝します」

世界から見放された孤児のようなハイチ。このような状況でも、子ども達は生まれ成長し、貧しい人々は生きています。センチルさんとハイチの人々に愛を送りましょう。



最近の診療風景

ハイチから

ハートフルファミリー紹介

ハートフルファミリーの集いで司会を務めた大野佳子さん。財団法人の代表理事でもあり、二人のお嬢さんのお母さんでもあります。イギリスでの生活経験から英語も堪能で、ミトンさん、アンジュさんとはセミナーの英語を話すグループで一緒にやり、親交を深めています。



大野佳子さん

2021年のバングラデシュ飢餓終焉の祝賀イベントがきっかけで、こころのビタミン研究所の活動に関わるようになりました。私が代表理事を務める財団法人は設立10年。子どもの教育環境支援を目的に、キャリア教育の出張授業や公募制の助成金事業を行っています。私の経験からも、こころのビタミン研究所が20年以上も支援先とパートナーシップを築いているのは本当に素晴らしいことだと思います。

ミトンさん、アンジュさんとは、セミナーを通じて、現状に留ま

ることなく先々を見据えたビジョンを真剣に語る目に強い印象を持ち、共に癒し学ぶことの意義を感じました。また、専門学校の相談員として、娘たちと同世代の学生達のカウンセリングをする度に、大人が答えを持っているわけではなく、一番大切なことは、真摯に愛をもって相手の話を聴くことだと感じています。次世代を担う若者達をこれからも支援していきたいと思っています。また、寄付や貢献する体験の豊かさを伝えられたらと思っています。(理事 大野佳子)

こころのビタミン研究所の活動にご支援をお願いいたします!

→ご寄付はホームページからお申込みいただけます

ホームページからは、クレジットカードでの寄付、ハートフルファミリー会員の申込みも可能です。

QRコード▶
こころのビタミン研究所
ホームページ



【振込先】 郵便局: ゆうちょ銀行 記号10100 番号77011271
銀行口座: 三井住友銀行 三田通支店 普通7852939
【口座名(郵便局・銀行共)】 特定非営利活動法人こころのビタミン研究所



〒108-0073 東京都港区三田3-1-5 第一奈半利川ビル3F
TEL 03-5765-1956 FAX 03-5765-1961
E-mail info@cocoro-v.org
URL <http://www.cocoro-v.org>
ブログ <http://ameblo.jp/cocoro-v>
Facebook 認定NPO法人こころのビタミン研究所

■2024年令和6年度 収支報告

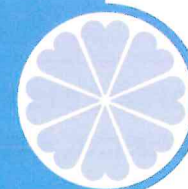
(令和6年4月1日～令和7年3月31日 単位:円)

収入の部		支出の部	
会費収入	650,000		
相談事業	196,722	相談事業	184,835
海外支援事業		海外支援事業	
バングラデシュ	11,000	バングラデシュ	7,228,965
ハイチ	11,000	ハイチ	2,682,280
子ども支援	31,000	子ども支援	600,165
被災者支援事業	2,000	あしなが育英会へ寄付	180,000
寄付金	15,259,703	喪失回復プログラム	102,300
		被災者支援事業	25,730
		会報及び出版物発行	408,245
受取利息	9,509	管理費、諸経費	4,698,090
当期収入	16,170,934	当期支出	16,110,610
前期繰越金	14,133,665	次期繰越金	14,193,989
合計	30,304,599	合計	30,304,599

令和7年度通常総会が6月5日に開催され、令和6年度決算報告は満場一致で承認されました。

Vitamin News

ビタミンニュース NO.35 2025年8月号



ハートフルファミリーの集い

講演会

女性性こそが、豊かで平和な世界への鍵

4月19日(土)に、こころのビタミン研究所恒例の「ハートフルファミリーの集い」が開催されました。参加者は、子ども支援先のてらこや子どもラボの渋谷代表、猫の足あとの岸田代表を含め、会場とリモート参加を合わせて、102名と大盛況でした。

今年のテーマは「女性性こそが、豊かで平和な世界への鍵」。大野佳子理事の落ち着いた司会で、湯田佐恵子理事と磯ヶ谷ふき子理事による「女性性」についての軽妙なやりとり続き、栗原英彰理事が「女性性とは何か」を、体験を含めてわかりやすく講演しました。続いて、栗原弘美代表理事が、13年間バングラデシュでセミナーを続ける中で、女性が輝き始め、参加者の意識が変わってきたことを語りました。最後に、祢津都子理事が3月にバングラデシュに行き、栗原代表理事が蒔いた種が10年の時を経て、確実に実っていることが報告され、感動的な会となりました。

このイベントで、4名のハートフルファミリー(HF)会員の申し込み、会員3名の方から毎月の寄付金額増額の申し出、5万5,000円の寄付がありました。皆様のご支援に心から感謝します。

司会は大野佳子さん



女性性とは、自分も含めて、大切な人を大切にすること。豊かで平和な世界はそこから始まります。

今、私は女性性にあふれています。5人目で初めて女の子の孫が生まれたのです。昨日、初めて会ってきました。その孫娘を見ながら、自分の娘が生まれた時のことを思い出しました。

娘が生まれた後、祢津都子さんの紹介で、ハンガープロジェクトの「女の子を殺さないで」というイベントに参加しました。当時インドには、「ダウリー」という結婚時に女性が婚家へ持参金を持っていくという慣習が根強く残っていて、持参金を用意できない貧しい家では、女の子が女の子であるという理由だけで殺されているというのです。大きな衝撃を受けました。そこで私たちは、女性たちが身近な庭で野菜を育て、稼げるようにする「キッチンガーデン・プロジェクト」を支援したのです。

昨日訪れた産院は「これから子どもを育てるぞ!」というクリエイティブなエネルギー、育む力、まさに女性性にあふれていました。男性性は、競争、戦略、戦っていくエネルギーです。大切な人を守るために、戦う男性性と、育む女性性。本当は

どちらかではなく、バランスが大切です。しかしこれまで世界は、あまりにも男性性に偏ってきました。男性性に偏った男尊女卑の社会は、女性だけでなく、男性にとってもきつい、豊かでも幸せでもない世界です。

ここから学ぶことは何でしょうか。私は娘や孫娘を心から「大切にしたい」と思いました。男性性が偏ると、大切な人を大切にすることが後回しになります。私も、かつて家族を大切にするより、仕事で結果を作る方を優先し、燃え尽きました。それは本来自分にとって最も「大切なこと、大切な人、大切な自分」を大切にできなかったからです。

女性性とは「大切なことを大切に。大切な人を大切に。大切な命を大切にすることです。女性性にあふれているとは、大切にしたい気持ちがあふれているということです。

混沌とした今の世界を、幸せで豊かにしたいのであれば、まず自分も含めて大切な命を大切にしてください。豊かで平和な世界はそこから始まります。一緒に大切な人生を生きていきましょう。

女性性あふれて語る栗原英彰理事





栗原弘美
(代表理事)

2003年から2015年まで13年間毎年、バングラデシュでビジョン心理学のセミナーを行いました。飢餓を終わらせるためには、金銭的な援助はもちろん、意識を変えることが重要なので、セミナーをやりたいとミトンさんに伝え、実現したのです。

当初、女性は黒い服から目しか出しておらず、地位のある男性が発言を独占している状態でした。ミトンさんが、お母さんを尊敬し、女性を大切にする人なので、セミナーの度に意識の改革が進んでいきました。女性たちは活発になり、男性といっしょに話し合い、行動するようになりました。そして、バングラデシュは飢餓を終わらせるまでに発展しました。

2015年の最後のセミナーで私は、バングラデシュをお母さんが幸せになる、女性が輝く国にしたいければ、お嫁さんを大事にしてください、自分の娘に女性であることの価値を認めるように教育してくださいと伝えました。今バングラデシュでは、セミナー参加者が共同で設立した病院のために、お姑さんとお嫁さんが一緒に活動しているそうです。そして、女性が輝くことを男性も喜んでいて聞き、大変嬉しいです。

女性は男性を敵ではなく味方、ホワイトナイトとして見ること、そして女性同士競争するのではなく、お互いに助け合っていくこと。それが世界を良くすることにつながるのです。



栗原弘美代表理事の蒔いた種が見事に実っていました！



祢津都子
(理事)

2025年3月24日～28日までバングラデシュを訪問しました。私は数回バングラデシュに行っていますが、1998年に行ったのが最後なので、27年ぶりのバングラデシュでした。首都ダッカは高速道路や高層ビルなど、驚くほど発展していましたが、ダッカから国内線で1時間、地方都市ジョソールの街は、リキシャがひしめく中に車が少しと、昔と変わらない風景でした。近年、経済成長が目覚ましいとは言え、首都と地方の貧富の格差を感じました。

3月26日にカリガンジを訪問しました。カリガンジはBBF(ビコシ バングラデシュ ファンデーション、代表ミトンさん)の活動地で、ジョソールから車で2時間ほどです。

ミトンさんの案内で、こころのビタミンが支援している小学校、病院、村を訪れ、また、奨学金を受給している女子学生や村の女性組織のリーダーの話を聞くことができました。

出会った人たちは、誰もが「ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ」を口にし、「弘美先生のセミナーで人生が変わった、また弘美先生に来てほしい、私たちを導いてほしい」という学校の先生はじめ皆さんの強い訴えに、胸が熱くなりました。

栗原代表理事のセミナー「バングラデシュの未来のためのビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ」は2015年が最後で、この10年間は行っていないにも関わらず、ミトンさんやアンジュさんがリーダーとなり、弘美先生の教えを伝え、実践し、多くの人々が精神的にも物質的にも豊かになっていることを目の当たりにしました。栗原代表理事の蒔いた種が確実にあちこちで実っていることに深く感動したカリガンジ訪問でした。



発展が目覚ましい首都ダッカ



地方都市ジョソールの街

ハートフルファミリーの集いに参加して

10年前のセミナーを胸に刻んで、拡大し続けているバングラデシュの女性たちのパワーを感じました。アンジュさんの顔が見られてうれしかったです。

(Y.O/HF会員)

改めて女性性の大切さを感じ、尊重したいと思いました。バングラデシュの方が立ち上がり、繋がっていく姿に感動しました。ここビタのおかげで、私も「生きたお金を使わせて貰っている」実感が湧き、幸せになりました。ありがとうございました。

(M.A/HF会員)

「ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ」を合言葉に、みんなで協力し、大きな成果をあげていました！

こころのビタミン研究所が支援しているBBFの活動地カリガンジを訪れ、小学校、職業訓練センター、病院、村などを視察し、色々な人にインタビューしました。皆さんが生き生きと自信に満ちて話す姿は、とても輝いていました。

シュニケトンパッシャラ小学校

3月26日は建国記念日で休校だったにも関わらず、近隣の小学生や先生、奨学金受給生たちが集まってくれました。

学校の壁には栗原英彰、弘美夫妻の写真が飾られていました。

子供たちは「学校は楽しい。先生が可愛がってくれるから学校が大好き！」と明るく元気に答えてくれました。将来の夢はお医者さん、先生、パイロットなどが多かったです。

先生たちは「弘美先生に教わった通り、子どもたちを慈しんでいます。弘美先生、ぜひ来てください」と強く訴えていました。



学校の生徒たちとミトンさん(右)



学校の先生たちと祢津さん(右)

奨学金を受給している女子学生たち

小林博子さんの寄付を元にした奨学金(ヒロスカラシップ)とこころのビタミン研究所の支援金で、約90人の少女に奨学金を支給しています。

奨学生ティティさんは、「奨学金で8年間学校に通い、大学に行くことができました。成績が一番になり、インド大使館から奨学金をもらえることになったので、今後ヒロスカラシップは辞退します。他の人に使ってほしいので」と話しました。



村の女性達とのミーティング

モストパプル村の女性たちとのミーティング

この村の女性組織のリーダー、モノワラさん(写真壇上右から2人目)は、「昔、生活はとても苦しかったです。弘美先生のセミナーを受けて、自分がリーダーシップを取ってもよいのだと思いました。BBFの女性組織のメンバーになって、仲間を増やしました。字の読み書き、計算、会計を学びました。人前で話せるようになり、互いに助け合うようになりました。ミミズ堆肥作り、牛の飼育、野菜栽培など、みんなで収入を増やしています。女性が収入を得ると男性も喜びます」と話していました。

ヘランさん(写真壇上右から3人目)は、「2003年に弘美先生のセミナーを受けた時、私は貧乏のどん底でした。しかし、セミナーが私を変えました。自分の足で立つことを教えてくれました。カリガンジはとても変わりました。弘美先生、ぜひ見に来てください！」と熱く語っていました。

ヘランさん(72歳)は、栄養が豊富な天然肥料であるミミズ堆肥のコンポストを作り、それを広めた功績により、前ハシナ首相から農業賞を受賞し、ネパールにもその製法を指導に行っています。

BBF副代表アンジュさんからのメッセージ



こころのビタミンの皆さん、こんにちは。
私たちは弘美先生から「ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ」を学び、それを実践しています。共に活動している女性たちともビジョンを共有しています。姑と嫁がいっしょに活動しています。子供たちも母親を見習っています。特に夫たちが女性の活動を支援してくれることは大変嬉しく、ありがたく思います。

飢餓を終わらせる鍵は女性です。それを家族や男性たちも信じています。私たち女性は自分たちでビジョンを創り、リーダーシップをとり、娘や息子、夫たちとパートナーシップを築いています。

弘美先生は私たちに、物質的な支援が必ずしも重要ではなく、精神の平和こそが大事であることを教えてくれました。

私たち女性は子供を育てるので、心の平和を保つことがとても重要です。それによって平和を家族、社会、世界に広げていくことができるからです。BBFから愛を送ります。

(報告 祢津都子 理事)